

令和7年度

事業報告書及び附属明細書

社会福祉法人中東福社会

目 次

(事業報告書)

法人本部の事業概要	1
重点項目・地域交流・防災報告	3

(附属明細書)

苦情・事故件数・公益通報対応状況	18
事業所別年間利用者数及び稼働率	19
職員数の推移	20
職員有資格者数	21
職員研修参加数	22

事業報告書

法人本部の事業報告（事業概要）

年月日	事業名	概要
4月1日	辞令交付式/新採用職員合同研修会	於. 帛の郷憩いのホール（研修会8名参加）
4月2日	五泉市長挨拶	於. 五泉市役所
5月13日・14日	ふじみ監査法人による決算監査	ふじみ監査法人より監査報告書受理
5月19日・20日	法人監事決算監査	於. 法人内施設
5月22日	外国人労働者受入れ事前研修	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者67名 講師：新潟医療福祉カレッジ・山田校長
5月28日	管理者会議	於. 帛の郷憩いのホール
6月4日	令和7年度第1回理事会	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者 理事8名 監事2名 議題 評議員選任・解任委員会の委員の選任について 次期理事・監事候補者の評議員会への推薦について 次期評議員候補者の評議員選任・解任委員会への推薦について 運営規程・就業規則・経理規程の一部改正について 奨学金貸与規程の制定について 給食業務委託に係る契約期間の延長について 令和6年度事業報告について・令和6年度決算について 令和7年度補正予算（第1号）について 令和7年度第1回評議員会の開催について 令和7年度第1回評議員会選任・解任委員会の開催について 施設長等の任免を含む人事異動について
6月19日 ※会場は全て 五泉市福祉会館 大会議室	令和7年第1回評議員会	出席者 評議員8名 理事3名 監事2名 議題 次期理事・監事の選任について 給食業務委託に係る契約期間の延長について 令和6年度事業報告について・令和6年度決算について 令和7年度補正予算（第1号）について
	令和7年第1回評議員選任 ・解任委員会	出席者 評議員選任・解任委員5名 理事1名 議題 評議員選任解任委員会の委員長の互選について 評議員の選任について
	令和7年度第2回理事会	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者 理事6名 監事2名 議題 理事長の選定について
7月1日 他	正規職員採用試験 (令和8年4月1日付採用)	於. 本部 正規職員外部14名
9月2日	管理者会議	於. 帛の郷憩いのホール
9月8日 他	法人監事 定期監査	於. 法人内各施設 6回実施 (9/8、10/6、11/17、12/8、1/27、2/16)
9月12日	ハラスメント研修会 (カスタマーハラスメント)	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者92名 講師：顧問特定社会保険労務士・橋本先生
10月10日	法人職員研修会 (てんかん発作の基礎知識)	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者83名 講師：西新潟中央病院 長谷川先生
10月20日 ※会場は帛の郷 憩いのホール	令和7年度第3回理事会	出席者 理事6名 監事1名 議題 理事長の職務執行状況について 運営規程・給与規則の一部改正について 育児休業・介護休業等に関する規程の全部改正について

年月日	事業名	概要
10月20日 ※第3回理事会終了後	ネパール交流会	出席者 理事6名 監事1名 評議員2名
10月31日	事務員研修会	於. 帛の郷憩いのホール 出席者21名 講師：ふじみ監査法人
11月7日	令和8年度新規採用職員内定式	於. 帛の郷憩いのホール 出席者10名
12月4日	管理職研修会	於. 帛の郷憩いのホール 出席者17名 講師：波多野総合事務所 波多野先生
12月3日	管理者会議	於. 帛の郷憩いのホール
12月10日	令和7年度第4回理事会	於. 帛の郷憩いのホール 出席者 理事6名 監事2名 議題 運営規程・就業規則の一部改正について 令和7年度補正予算（第2号）について 令和7年度第2回評議員会の開催について
12月18日	令和7年度第2回評議員会	於. 帛の郷憩いのホール 出席者 評議員8名 理事3名 監事2名 議題 令和7年度補正予算（第2号）について
令和8年1月5日	理事長年頭挨拶	於. 法人内各施設
1月6日	五泉市長挨拶	於. 五泉市役所
1月9日	阿賀町長挨拶	於. 阿賀町役場
2月20日 ※会場は全て 五泉市福祉会館 大会議室	令和7年第5回理事会 新年度事業・予算説明会（役員） 管理者会議	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者 理事7名 監事2名 議題 運営規程・就業規則・社宅管理規程の一部改正について 施設長等の任免に係る人事異動について うずらはしに入居していた入居者家族からの訴訟について
3月4日	管理者会議	於. 帛の郷憩いのホール
3月9日	令和7年度第6回理事会	於. 帛の郷憩いのホール 出席者 理事6名 監事2名 議題 理事長の職務執行状況について 苦情解決第三者委員の選任について 運営規程・就業規則・給与規則の一部改正について 職員紹介規程の制定について 役員賠償責任保険野保険料負担について 令和7年度補正予算（第3号）について 令和8年度事業方針、予算について 令和7年度第3回評議員会の開催について
3月16日	第15回賞罰委員会	案件 第二いづみの里入居者への身体的虐待にあたる通報事案について
3月18日	令和7年度第3回評議員会	於. 五泉市福祉会館大会議室 出席者 評議員7名 理事3名 監事2名 議題 令和7年度補正予算（第3号）について 令和8年度事業方針、予算について うずらはしに入居していた入居者家族からの訴訟について
3月24日	第16回賞罰委員会	案件 満日の里の入居者への不適切な支援について
3月31日	退職者辞令交付式	於. 帛の郷憩いのホール

法人施設の事業報告（重点項目・地域交流・防災）

障 害 福 祉 事 業 部			
施設名	計 画	報 告	課 題 等
いずみの里	○重点項目		
	(1) 生活介護・日中一時支援事業		
	<p>・個別支援計画に沿った支援が提供できるよう、一人ひとりの状態に合わせた発達障害者支援、「集中しやすい」「分かりやすい」「安心できる」環境づくり(構造化)、リハビリテーション支援等を強化する。多種多様なサービスメニューが必要になってくるため、多職種協働の各チームでそのメニューを開発し、実践する。</p>	<p>・個別支援会議および各支援チーム会議を定期的に行い、ご利用者の状態変化の共有、行動の要因分析、支援内容の検討等を行い、専門職と連携しながら進め、個別支援計画の見直しに反映させた。</p> <p>・これまで実施してきた日中活動の内容や一日の流れが定着し、ご利用者の生活リズムの一部として安定して確立された。障害特性に配慮した環境整備を進めた。</p>	<p>・ご利用者が安心、安全に過ごす環境整備の推進</p> <p>・障害特性に配慮した支援方法の習得</p>
	(2) 施設入所支援・短期入所事業		
	<p>・安全安心な生活が提供できるように、支援の見直しや環境改善を図る。高齢利用者の転倒事故や誤嚥性肺炎等の予防を行う。また、状態の変化を見逃さないよう、職員間の情報共有による気づきを高め施設サービスの充実に努める。要介護者には介護保険への移行も視野に入れ、行政や関係機関と連携を密にする。</p>	<p>・生活支援員と専門職が連携しご利用者の健康維持、安心安全な環境整備の取り組みを園内研修、個別支援会議を通して推進した。</p> <p>・誤薬事故には定期的に服薬マニュアルの確認、周知を定期的に行うことで前年度より減少することができた。</p> <p>・高齢ご利用者への支援について、状態変化を相談員と情報共有し、早い段階での支援内容の協議を行った。</p>	<p>・誤薬事故防止に向けた再発防止策協議の徹底</p>
(3) 居宅介護等事業（フレンド）			
<p>・在宅利用者が地域で充実した生活が送れるよう、居宅介護計画に基づいた生活支援及び介護サービスを提供する。また、福祉有償運送事業における安全運転教育を徹底し、事故防止に努める。</p>	<p>・報酬面の課題により事業継続が難しい状況が続いており、やむを得ず事業縮小の方向性をご利用者および担当相談員に対し、配置人員の範囲内でのサービス提供となる旨を丁寧に説明した。</p> <p>・安全第一を念頭にサービス提供し事故ゼロとできた。</p>	<p>・体調管理に必要な通院支援の継続</p>	
(4) 共同生活援助事業（陽だまり）			
<p>・利用者が、住み慣れた地域の中で自分らしく安心して暮らすことができるように、軽度知的障害者や在宅の高齢知的障害者の支援方法を学び、一人ひとりに合ったサービスを提供する。</p>	<p>・高齢ご利用者が安心安全な地域生活が送れるよう、支援者・関係機関で協議を行い、特養、障害者入所施設（短期入所含む）や日中支援型グループホームへの移行を行った。令和7年度7名退去を受け女性寮の1つを閉鎖し、ご利用者の支援に合わせて勤務体系を見直した。</p>	<p>・ご利用者個々に適した住み替えやサービス内容の変更</p>	

施設名	計 画	報 告	課題等
いずみの里	<p>○重点項目</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・感染症予防を徹底しつつ、近隣他施設をはじめ、地域との交流を推進していく。具体的には地域の行事等に積極的に参加することはもとより、近隣他施設との情報共有や、地域合同防災訓練を継続的に行い、災害発生時においてもサービスを継続的に提供できる体制を構築する。また、新たに地域連携推進会議を開催し、事業運営の透明性を高め、サービスの質の確保にもつなげていく。</p>	<p>・毎年参加している川払い、祭りへの参加を行い、地域住民へ施設の現状をお伝えし、協力をお願いした。</p> <p>・合わせて令和7年度より地域連携推進会議の開催が義務化され、行政地区担当、地域関係者への情報提供を行った。</p> <p>・10月の地域合同防災訓練に参加し、地域住民、周辺施設との連携を再確認した。</p>	<p>・防災マニュアルの見直し等の対策強化</p>
自立就労センターいずみ	<p>(1) 自立訓練(生活訓練)事業</p> <p>・日常生活の向上に向けた支援や社会適応訓練などを行う。知的障害の他に発達障害など利用者の障害特性が多岐にわたり、個別のニーズと課題が多様多岐の中、利用者の生活能力の維持・向上のために必要な、個別支援計画に沿った支援プログラムの拡充と地域生活を営むうえでの自立に向けた支援に努める。</p> <p>(2) 就労継続支援A型事業</p> <p>・法人との雇用契約に基づき、就労に必要な知識や能力の向上に向けた支援を行う。施設外就労や工房業務を提供する中でスキルアップを図り、悩みごとの相談を受けるなど精神面を支援することで「働きがい」が実感でき、就労が継続できるようにする。併せて、利用者の意思や能力に応じた職場開拓や求職活動を行う。</p> <p>(3) 就労継続支援B型事業</p> <p>・利用者一人ひとりに、知識及び能力の維持・向上に必要な支援を行い、工賃の向上を含め就労支援に力を入れるとともに、「集中しやすい」「分かりやすい」「安心できる」環境づくり(構造化)を行う。また、施設外就労や移動販売業務、農耕及び出荷・販売業務などにより多くの利用者に関われるようにし、お客様や地域の支援者との交流を通じて「働く喜び」が実感できるように対応する。</p> <p>・請負作業や農福連携については、法人内就労系事業所と共同で受注できるよう連携を強化し対応する。</p>	<p>・令和7年度対象(1名)の利用期間終了に伴い、他地域ニーズが少ないことから、令和7年度末をもって事業廃止することとなった。対象者は令和8年度より就労継続支援B型事業で受け入れを継続する。</p> <p>・定期的に就労先に訪問し、業務内容・業務能力・仕上がり状況を確認し、個々に必要な助言等を行うことでスキルアップを図った。併せて対話の中にご利用者の思いを汲み取り、意欲的な就労に向けた支援を行った。</p> <p>・工房業務では衛生管理に重点を置き、無理のない製造ペースを維持することで品質管理に努めた。</p> <p>・平均工賃は月額35,993円となり、令和8年度給付費単価を上位にすることができた。</p> <p>・作業とご利用者の得意分野をマッチングすることにより、一定の品質を維持しながら納期を守って受託作業を請け負うことができた。作業室の環境整備(整理整頓、視覚支援等)やご利用者の障害特性に配慮した支援(作業補助具の製作等)を進めた。</p> <p>・施設外就労では事前練習を継続的に行うことで、ご利用者のスキルアップを図った。</p> <p>・農福連携の請負作業は人員を多く割けなかったが、継続した作業受託の依頼があり収益に繋ぐことができた。</p>	<p>・令和7年度で事業廃止</p> <p>・就労先との連携強化</p> <p>・スケジュール管理による計画的な作業受託</p> <p>・収益性を考慮した受託内容の選定</p>

施設名	計 画	報 告	課題等
自立就労センターいずみ	○重点項目		
	(4) 就労定着支援事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 福祉サービス利用後、一般就労に伴い生じる日常生活や社会生活を営む上での課題に対応できるよう関係機関や家族等と連絡調整の上、相談、指導、助言等について必要な支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 前年度から継続した3名のご利用者へ定期的な訪問面談を行い、一般就労の継続できるよう関係機関と連携して支援を行った。うち1名はご本人の希望で終了し、2名に対して相談・助言等の支援を継続した。 	<ul style="list-style-type: none"> 関係機関との連携強化
	○地域交流・防災		
	<ul style="list-style-type: none"> 新型コロナウイルスを中心とした感染症の状況をみながら、地元町内会との交流等を実施し、地域住民とのふれあいを通じて相互理解を深め、地域交流を図っていく。 防災については、定期的に避難訓練を実施し、利用者及び職員の安全確保に努める。また、関係機関との連絡体制を整備し、情報共有と連携を密にする。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎年参加している川払いに参加し、地域の一員として住民と交流しながら事業所の現状をお伝えし、また地域の実情の聞き取り等交流を図った。 定期的な防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練をいずみの里と一体的に実施し、災害時の連携体制を再確認した。 	<ul style="list-style-type: none"> いずみの里と一体的な防災マニュアルの見直し等の対策強化
第二いずみの里	(1) 生活介護・日中一時支援事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 高齢による重度化には、基礎的生活能力の向上と健康の保持、体力の増進を図るための必要な支援を行う。また、身体的機能の低下や認知機能の低下が危惧される利用者には、専門職員による評価に基づいたリハビリ支援を提供する。 障害の多様化には、個々の発達障害や強度行動障害等の特性及び成育歴を理解した支援を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待事案が発生し、各自治体から改善指導を受けた。また、骨折事故が多発し、県から改善指導を受けた。 多職種と支援会議を行い、個々の障害特性に合わせたマニュアルを作成し実行をした。 積極的に総合支援協議会関係の会議に参加し、支援のスキルアップに繋げた。 	<ul style="list-style-type: none"> 虐待防止に向けた取り組みの強化 事故再発防止に向けた取り組みの強化
	(2) 施設入所支援・短期入所事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 施設入所支援は、利用者が安全安心に過ごすことができるよう一人ひとりに寄り添いながら、生活の場としての施設環境づくりを進める。また、口腔の病気や全身疾患を予防するため、口腔ケアのスキル向上に取り組む。 短期入所は、在宅生活の継続と家族負担軽減のため、積極的に受け入れを行い、緊急時の受け入れが必要なケースについては、関係機関と連携を図りながら対応する。また、感染防止対策を徹底し、感染拡大時においてもサービスを継続的に提供できる体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> 共有の場のレイアウト変更、新たなリビングルームの設置、居室の適温、適湿の管理をし、より快適な暮らしを実現できるよう取り組んだ。 短期入所の受け入れについては、ご家族の意向に沿えるよう利用調整を行った。 日常的な感染防止対策について、朝会や委員会などで周知徹底を行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 誤薬（落薬）事故の防止、服薬マニュアルの徹底

施設名	計 画	報 告	課題等
第二いずみの里	○重点項目		
	○地域交流・防災 ・感染症予防を徹底しつつ、近隣他施設をはじめ、地域との交流を推進していく。具体的には、地域の行事等に積極的に参加することはもとより、近隣他施設との情報共有や地域合同防災訓練を継続的に行ない、災害発生時においてもサービスを継続的に提供できる体制を構築する。また、新たに地域連携推進会議を開催し、事業運営の透明性を高め、サービスの質の確保にもつなげていく。	・地元の地域活動（川払い等）へ積極的に参加した。 ・地域合同防災訓練を地域住民参加により実施した。 ・令和7年度から義務化となった地域連携推進会議を地域関係者、後見人、当事者等に参加してもらい、いずみの里と合同で開催した。	・防災対策の強化
満日の里	(1) 生活介護・日中一時支援事業 ・高齢による重度化には身体機能低下防止のため、一層のリハビリ支援の充実に務める。基本的な支援や介助について再度確認し、事故防止に努めるとともに、強度行動障害等の支援については、引き続き環境を整え、専門性の高い支援を提供する。	・虐待事案が発生し、ご利用者やご家族はもちろん、関係各所に多大なるご心配ご迷惑をおかけした。 ・事故については、様々対策を講じるも重度化・高齢化が進み、減少には至らなかった。	・縦横コミュニケーションをよく取りながら、質の高い支援も提供できるように職員支援を行う
	(2) 施設入所支援・短期入所事業 ・利用者個々のニーズに応じた質の高い支援を目指すとともに、安全で安心できる暮らしを提供する。また、短期入所は在宅障害者の生活継続と家族負担軽減のため、関係機関と連携を図り、緊急対応にも可能な限り受け入れられるよう体制を整える。	・各居室、共有設備等の衛生保持に努めた。 ・短期入所については、コロナ感染症クラスターが2度発生し、受け入れを断わざるを得ないこともあった。	・感染症標準予防策を確実に実施する
	(3) 相談支援事業（まんいち） ・障害児者の心身の状況、その置かれている環境、サービス利用に関する意向、その他の事情を勘案し、サービス等利用計画を作成し支援する。また、行政や新潟市障がい者基幹相談支援センターをはじめとした各関係機関とのネットワークを活用した支援を行う。	・困難ケースについては、相談員が抱え込むことのないよう関係機関と連携し支援した。 ・隔月毎、相談員個々の抱える課題について事業所全体で共有し、解決策を話し合い、実践に結び付けた。	・業務の効率化を図り、生産性を高める
	(4) 共同生活援助事業（なでしこ） ・地域生活を希望する利用者のニーズに応え、自分らしく安全快適な生活が出来るよう支援する。また、より支援が充実すよう計画的な住替え等を実施する。	・軽度知的障害者の支援について、園内研修を開催した。 ・事業計画に基づき、GHなでしこの住替えを実施した。	・老朽化したGHを中心に住み替えを実施する

施設名	計 画	報 告	課題等
満日の里	<p>○重点項目</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・感染症予防を徹底しつつ、癒しの福祉ゾーンの各施設はじめ、地域との交流を推進していく。具体的には、地域の行事等へ積極的に参加することはもとより、地域合同防災訓練の実施から災害時における協力体制を構築する。また、新たに地域連携推進会議を開催し事業運営の透明性を高め、サービスの質の確保にもつなげていく。</p>	<p>・近隣施設、満日コミ協と連携を密にし、各種行事に参加した。また防災に関する協議も行った。</p> <p>・半年毎に、水害を想定した避難訓練を実施した。</p> <p>・満日の里、なでしこそれぞれ第1回目の地域連携推進会議を開催した。事業所の取組みを紹介するとともに見学も実施し、事業所運営に関する意見をいただいた。</p>	<p>・引き続き地域との連携を強化していく</p> <p>・各種避難訓練を実施する</p> <p>・風通しのよい事業所運営に努める</p>
きなせ家	<p>(1) 生活介護事業</p> <p>・障害特性や年齢、意向等をふまえて作成した個別支援計画に基づき、日々のケアや達成感のある活動、社会参加を目的とした外出支援等を提供する。また、安全に配慮し、且つ利用者にとってわかりやすく居心地の良い環境作りを継続する。成人期障害者支援や強度行動障害支援を得意とする事業所をめざし、アセスメント力の強化を図りつつ、さくらの里と連携した現利用者の円滑な移行を進める。</p> <p>(2) 就労継続支援B型事業</p> <p>・個別支援計画に基づき、様々な生産活動や受託作業を利用者一人一人の意向を尊重し提供する。「集中しやすい」「わかりやすい」「安心できる」環境作り(構造化)を継続しながら、利用者が個々の能力を十分に発揮できるよう支援する。請負作業や農福連携作業の受注及びオリジナル商品販売に関して、さくらの里等との連携を継続していく。高工賃を目指す利用者と居場所として通う利用者が混在する現状及び課題は他事業所と共通しているため、協議を継続する。</p>	<p>・ステーションや利用者荷物棚の配置変更、男子トイレの洋式化等の環境整備に努めた。</p> <p>・特色化に伴い、50代利用者3人がさくらの里へ、10～20代のさくらの里利用者2人がきなせ家へそれぞれ契約変更した。本人及び家族への丁寧な説明や見学を実施し、円滑に進めることが出来た。</p> <p>・支援上の課題のあるケースについて、県事業を受託している発達障害者地域支援マネージャーから強度行動障害支援について指導、助言を受けながら取組んだ。</p> <p>・平均工賃月額は17,738円となり、令和8年度給付費単価を維持することが出来た。</p> <p>・作業請負については、特にさくらの里と協力し互いの状況に応じて作業量を調整することで受注量を維持するよう努めた。</p> <p>・法人内就労系事業所現利用者の状況を集約し、年齢や心身状況、作業能力に応じた支援ニーズを分類したところ、現利用者86人の20%が5年後は生活介護等が適当であるという結果となった。</p>	<p>・強度行動障害支援の専門性向上</p> <p>・再編に関する合意形成</p>

施設名	計 画	報 告	課題等
きなせ家	<p>○重点項目</p> <p>(3) 地域活動支援センター事業</p> <p>・五泉市の委託によるⅡ型事業として、創作活動・生産活動・地域における交流活動など個々に適した活動の提供に努めるとともに、積極的に障害者の社会参加及び自立の促進を図る。</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・地域貢献活動として、近隣公園のゴミ拾いを継続する。非常災害時に備え、消防計画及び業務継続計画(BCP)に基づいた研修・訓練を計画的に実施するとともに、日頃から地域住民との協力関係づくりに努める。</p>	<p>・令和7年度より土曜日開所を毎週から月2回の開所とし、また活動場所はきなせ家2階へ変更した。生活介護と場所を分けたことで活動も充実し、開所日数は減ったものの満足度の高い余暇支援を提供することができた。</p> <p>・在宅障害者余暇イベントの「サンサンクラブ」を「サマーフェス」「オータムフェス」に改称し実施した。</p> <p>・寺沢3丁目町内防災訓練への職員参加を通し、地域住民との顔の見える関係づくりに努めた。</p> <p>・園内行事にダンスや手品、楽器演奏のボランティアを招き交流及び開かれた施設運営に努めた。</p>	<p>・実践的なBCP訓練の実施</p>
さくらの里	<p>(1) 生活介護事業</p> <p>・障害特性や年齢、意向等をふまえて作成した個別支援計画に基づき、日々のケアや達成感のある活動、個別の意向に沿った外出支援等を提供する。また、より快適な空間をめざし環境整備に努める。ゆったりと健康的に過ごすことに重点を置いた高齢期障害者支援を得意とする事業所をめざし、きなせ家と連携した現利用者の円滑な移行を進める。</p> <p>(2) 就労継続支援B型事業</p> <p>・個別支援計画に基づき、様々な生産活動や受託作業を利用者一人一人の意向を尊重しながら提供する。また、利用者個々の能力を引き出すための環境作りや情報提供の工夫等に取り組み、利用者の成功体験を積み上げていく。オリジナル商品を一新し、販路拡大を図るとともに、請負作業や農福連携作業の受注に関して、きなせ家等との連携を継続していく。高工賃を目指す利用者として通う利用者が混在する現状及び課題は他事業所と共通しているため、協議を継続する。</p>	<p>・近隣地域へのスイーツ外出等、行きたい場所や年齢等を考慮した少人数での外出企画を実施した。</p> <p>・特色化に伴い、10～20代の利用者2人がきなせ家へ、50代のきなせ家利用者3人がさくらの里へそれぞれ契約変更した。本人及び家族への丁寧な説明や見学を実施し、円滑に進めることが出来た。</p> <p>・平均工賃月額は25,090円となり、令和8年度給付費単価を上位にすることが出来た。</p> <p>・作業請負については、特にきなせ家と協力し互いの状況に応じて作業量を調整することで受注量を維持するよう努めた。</p> <p>・ニット残糸を活用したオリジナル商品を作製し、メディアシップのイベント等で販売した。 (法人内就労系事業所現利用者の状況集約についてはきなせ家と同様)</p>	<p>・高齢期障害者向けの活動や機能訓練の充実</p> <p>・新規利用者の獲得</p>

施設名	計 画	報 告	課題等
さくらの里	○重点項目 (3) 地域活動支援センター事業		
	・五泉市の委託によるⅢ型事業として、生産活動・創作活動・地域における交流活動 など個々に適した活動の提供に努めるとともに、積極的に障害者の社会参加及び自立の促進を図る。	・創作物の文化祭展示や季節の外出等を通し利用者の社会参加を図った。 ・在宅障害者余暇イベント「サンサンクラブ」を「サマーフェス」「オータムフェス」に改称し実施した。利用者の更なる余暇充実のため、てらざわと別にさくらの里としてオータムフェスを開催し好評を得た。	
	○地域交流・防災 ・さくらアリーナ、村松公園をはじめとする地域資源の利用を継続し、地域の方との接点を深める。非常災害時に備え、消防計画及び業務継続計画(BCP) に基づいた研修・訓練を計画的に実施するとともに、日頃から地域住民との協力関係づくりに努める。	・近隣の地域資源の活用に加え、昨年度に続き園内行事に手品ボランティアを招き、交流及び開かれた施設運営に努めた。 ・町内会清掃活動への職員参加等、ご近所付き合いを大事にしながらか関係づくりに努めた。	・実践的なBCP訓練の実施
あさひの家	(1) 相談支援事業		
	・五泉市からの委託相談、計画相談支援、地域相談支援による重層的な相談支援が可能な事業所の強みを活かし様々な相談に対応するとともに、個別の相談から地域に共通する課題を見つけ、五泉市障がい者総合支援協議会を通して「地域づくり」に反映させていく。また、ひきこもり支援については、行政と連携して対応していく。	・五泉市からの委託相談は、年間延べ1,512件であった。 ・五泉市障がい者総合支援協議会では、地域生活部会、就労部会、相談支援等連絡会にそれぞれ参加し、地域づくりに取り組んだ。 ・自殺対策連携調整会議、こころの健康相談会、ワンストップ相談会に参加した。 ・基幹相談支援センターが主催する、ひきこもり家族座談会への協力を行った。	・関係機関との連携、情報共有
	(2) 地域活動支援センター事業		
	・憩いの場が安心・安全かつ楽しく集うことができる場となるよう環境整備及び各種活動、行事イベントの充実に努める。また、精神障害に関する正しい理解を普及発信し、当事者及び家族が安心して暮らせる地域づくりのため、行政等が主催する各種講座や普及啓発事業への協力を継続する。	・季節感のある行事を多く実施し、来所のきっかけとなるよう取り組んだ。憩いの場のテーブルの位置を見直したことで、過ごしやすさの環境整備に務めた。 ・地域活動支援センターの利用者は、延べ2,959名の利用があった。 ・「こころの健康講座」を開催し8名の参加があった。	・新規利用登録者の利用定着 ・関係機関との連携、情報共有
	○地域交流・防災 ・地域行事、各種イベント等への参加を通じて、地域交流を推進していく。防災に関しては消防計画及び業務継続計画(BCP) に沿った訓練を実施し、利用者及び職員の安心安全に努める。	・行事ボランティアとして、虹の会から協力を頂いた。 ・避難訓練を年2回、事業継続計画(BCP) に基づく訓練を実施した。また、普通救命講習に参加した。	・感染症や災害への対応強化

施設名	計 画	報 告	課題等
虹工房	○重点項目		
	(1) 就労移行支援事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 一般就労に必要な技術や能力を見極め、就労移行支援計画書に沿って個々の状況に応じた支援を行い、ハローワーク等関係機関と連携のもと、利用者の特性や希望に合った就労へつなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 契約者1名。ハローワーク同行等で就職活動を支援してきたが就職へは結びつかず、10月末で移行支援期間が終了し契約終了となった。 就労アセスメントの依頼があり、暫定支給を取って1月にアセスメントを実施した。 	<ul style="list-style-type: none"> 定員割れが常態化
	(2) 就労継続支援B型事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 個々の能力をのばし目標が達成できるよう、就労継続支援B型支援計画書に沿った施設内外の作業の提供及び就労に向けた訓練を行う。また、請負作業や農福連携については、法人内就労系事業所と共同で受注できるよう連携を強化し、更なる工賃向上や社会参加を促進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均工賃月額25,856円。新規作業を2件受託、法人内事業所と連携し工賃水準を維持することができた。 健康管理や生活リズム改善を大きな土台とし、少しずつステップを踏みながら働くための準備を進めていけるよう定期的なミーティングを計画し実施した。 就職希望の利用者へ面接練習などの支援を行った。職場実習からトライアル雇用となり、緊急時の連絡体制等で職場定着を支援した。正式雇用となり11月利用修了。 3名の利用者が体調、加齢に伴うニーズ変化があり関係機関と連携し次のサービスに繋げた。現在14名利用中。 	<ul style="list-style-type: none"> 工賃水準の維持 利用者確保
	(3) 地域活動支援センター事業		
<ul style="list-style-type: none"> 利用者の心身の状況に応じた生産活動、創作的活動、余暇活動及び健康増進等の活動を提供し若年者から高齢者まで個々のニーズとペースに応じた支援を実施する。また、ひきこもり支援については、行政と連携して対応していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者の高齢化もあり社会交流、健康維持を中心とした活動を企画、提案した。 レク等は外部講師を積極的に活用し幅広い年齢層が楽しんで活動に参加できるよう配慮した。 高齢となった利用者がニーズにあった生活を送れるよう介護サービスの利用に向け関係機関と連携を行った。 		
○地域交流・防災			
<ul style="list-style-type: none"> 地域行事等への参加を通じて、地域貢献、地域交流を推進していく。防災に関しては消防計画及び業務継続計画（BCP）に沿った訓練を実施し、利用者及び職員の安心安全に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアグループ虹の会と月に1度交流活動を行った。あさひの家での行事にも参加し必要に応じて同行支援も行った。 日常点検を定期的実施した。防災訓練は消防計画に沿って実施した。業務継続計画（BCP）訓練では避難場所になっている五泉市総合体育館への避難を行い、実践的な訓練を行えた。 		

施設名	計 画	報 告	課題等
たんぼぼ	○重点項目		
	(1) 生活介護事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 健康を保持するため、食事や入浴、排せつ等の基本的日常生活を支援するとともに体力向上、身体機能の維持ができる運動を個々に適した内容で実施する。また、達成感や意欲の持てる活動や社会参加を目的とした外出や季節ごとの行事、ボランティアとの交流活動等を計画し実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 課題の整理を行い、日課や活動内容、支援内容の見直しを行った。 猛暑や大雪、熊被害などがあり、年間を通して外部へ出る活動や行事が思うように実施できなかった。 ボランティアに来ていただき、一緒に活動することで交流することができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 支援力の向上 高齢利用者の介護保険サービスへの移行
	(2) 就労継続支援B型事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 個々の障害や特性に合わせて施設内外の多種多様な作業を提供し、求められる知識や技能の習得及び向上に必要な訓練を行うとともに、「働く」ためのマナー習得や意欲の向上に向けた支援を行う。利用者が協同して共に活動することができるよう、個々の意向を尊重しながら円滑なコミュニケーションがとれるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 受託作業、施設外就労、農福連携作業、各作業の調整を行い実施した。また、地域のイベントに参加し、菓子やオリジナル製品の販売を通して地域交流、工賃向上を図った。受託先企業の倒産があったが、営業活動等により他受託作業が増加し、就労支援事業収入が前年度より増額となった。しかし、利用者の増加や新規作業等の経費が増えたことにより、平均工賃が15,165円と前年度に比べて減額となった。 	<ul style="list-style-type: none"> 平均工賃額の維持・向上 作業・業務の効率化 作業内容や工賃算定方法の見直し
	(3) 相談支援事業		
	<ul style="list-style-type: none"> 利用者・家族のニーズを的確に把握し、必要な社会資源を活用しながら、様々な相談に対応できるようにする。個人の相談から地域に共通する課題を見つけ、行政や阿賀町障害者自立支援協議会を通して、個人の尊厳にふさわしい日常生活や社会生活を営むことができる地域づくりに反映させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 各関係機関と連携し、利用者が安心してサービスを受けられるように調整を行った。 家族からのニーズを受け、適切なサービス提供につなげることができた。 利用者、家族との信頼関係構築に努めた。 事業所の移転準備を計画的に行った。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会資源が少ないため、関係機関や自立支援協議会等との連携をより強化する
	(4) 地域活動支援センター事業		
<ul style="list-style-type: none"> 生産活動や地域との交流活動などの機会を提供し、障害者の社会参加や交流の促進を図る。また、地域社会とつながりを持ち、日常生活に変化がもてるような情報提供を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年7回の交流行事を計画し実施した。感染症等に留意しながら交流行事や外出、地域貢献活動も取り入れて計画した。また、たんぼぼのサービス利用者だけでなく、地域で就労している方への参加も呼び掛けて参加していただき、交流を深めた。 	<ul style="list-style-type: none"> 活動内容や実施方法、参加利用者の見直し 	
○地域交流・防災			
<ul style="list-style-type: none"> 地域コミュニティの中のたんぼぼとして地域行事への参加や、地域貢献活動等を積極的に行う。また、非常災害時の避難所や交流の場として集会室を解放し、地域社会との共生を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域交流では、町内での地域交流やボランティア受入れ、地域貢献活動参加の計画を立て、実施することができた。 防災では、避難訓練時に地域の区長にも参加していただき、連携を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 自然災害対策や熊対策の強化 	

高 齢 福 祉 事 業 部

施設名	計 画	報 告	課題等
菅名の里	○重点項目		
	(1) 特別養護老人ホーム事業		
	<p>・自立支援、重度化防止から終末期ケアに至るまで本人及びご家族の意思や希望を尊重したケアを継続する。自立支援、重度化防止には一体的に取り組み、LIFEデータを活用した施設ケアの検証は継続的に行う。感染症対策を日常化としながら、入居者の生活にコロナ禍前の生活に戻せるよう努力する。</p>	<p>・LIFEフィードバックデータを活用し施設ケアの検証に取り組み、多職種で科学的介護の実践を行った。 ・4月にはノロウイルスの集団感染、10月にはコロナウイルスの感染者が数名出たが、笹団子作り交流会や秋祭りをはじめとする行事や慰問の受入れを積極的に行い、コロナ禍後初となるご家族を行事に招くなどコロナ禍前の生活に戻す取り組みを推進した。</p>	<p>・建物及び設備の老朽化</p>
	(2) 短期入所、障害短期入所事業		
	<p>・自立支援、重度化防止から終末期ケアに至るまで本人及びご家族の意思や希望を尊重したケアを継続する。受け入れについても多様化する介護ニーズを踏まえ、レスパイトから長期利用、終末期支援まで幅広く柔軟に対応する。感染症対策を日常化としながらも、専門的サービスが提供できるよう努める。</p>	<p>・楽しみのあるサービスを目指し、調理はじめ様々なレクリエーションの実施に力を入れ、楽しみながら身体機能維持、自立支援、重度化予防に取り組めた。 ・稼働の安定に向けて居宅事業所と連携し、法人内の特養入所に繋がる長期利用にも対応した。</p>	<p>・感染対策を行いながらの稼働率向上</p>
(3) 在宅介護支援センター事業			
<p>・地域包括支援センターのランチ機能として、行政・民生委員、居宅介護支援事業所等と連携し、地域の総合窓口としての役割を果たす。また地域住民の自助・共助のための支援の仕組み作り（地域作り推進事業）と総合的な介護予防事業をさらに推進する。</p>	<p>・お茶の間サロンや座談会で地域に出向き、介護予防に関する正しい知識の普及啓発・地域づくりに努めた。 ・民生委員や地域包括支援センターと連携し、高齢者の実態把握により、早期発見、早期対応に努めた。 ・介護予防事業（通所型サービスC）は、他職種協働で運営でき、様々な活動や各種関係機関とのネットワークを通して地域の身近な介護問題への対応ができた。</p>		
(4) 居宅介護支援事業			
<p>・専門的な知識とアセスメント、プランニング能力の向上に努め、利用者本位の自立支援型ケアマネジメントを推進する。介護サービス事業所との連携による、きめ細やかなサービスの提供を行い、地域、関係機関、専門職等とのネットワークによる地域ケアを推進するとともに、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を果たす。</p>	<p>・様々な研修に積極的に参加し、自己研鑽に努めた。 ・障がいサービスから介護保険サービスへの移行や、サービス併用者も増えてくることが予測されるため、障がいサービスへの理解を深めつつ様々な制度や社会資源についての知識向上に努めた。 ・法人内のサービス事業所との連携を密にししながら、互いに稼働向上を意識し業務に取り組んだ。</p>		

施設名	計 画	報 告	課題等
菅名の里	<p>○重点項目</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・地域、関係機関とコミュニケーションを深め新たな地域交流の形を再構築する。防災体制においては職員の意識を高め、定期的にマニュアル等の見直し、避難訓練により避難体制の質を向上させる。</p>	<p>・前年度に続き対面での福祉のまちづくり運動推進委員会総会が開催され、地域住民や関係機関と協力体制について再確認できた。</p> <p>・特定技能職員の受入れにあたり、地域住民を対象とした事前説明会や、特定技能職員と地域住民との交流会を行った。</p> <p>・火災や土砂災害想定の実施及び地域合同防災訓練を実施し、有事に備えた。</p>	<p>・地域の高齢化</p>
まおろしの郷	<p>(1) 特別養護老人ホーム事業</p> <p>・自立支援、重度化防止から終末期ケアに至るまで本人及びご家族の意思や希望を尊重したケアを継続する。居室担当の意識を高め個別ケアの向上が図れる体制と円滑に情報共有ができるチームを構築する。また科学的介護フィードバックデータを活用し栄養、褥瘡、口腔、認知症の各ケアの確認、見直しを行いADL（日常生活動作）等の数的改善のため、チームケアを推進する。</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・地域住民を交えた園内行事の企画など、地域住民との新しい連携方法を模索する。防災体制においては業務継続計画（BCP）をもとにした訓練を定期的実施し、地域住民と連携、協力を図りながら災害に備える。</p>	<p>・8件の看取りケアを実施した。看取りケアの実施に当たっては家族と情報を共有し、居室担当が中心となってその人らしい最期を迎えられるようケアを実施した。</p> <p>・在宅医療介護ネットワークの会主催の市民公開講座において看取りケアについて事例発表を行った。</p> <p>・チームケアを推進し、入居者のADL（日常生活自立度）の維持、改善の取り組みを実施した。</p> <p>・地域交流事業として、コロナ禍以降初めて芋煮会行事を入居者家族、地域住民を招いて園内で実施した。</p> <p>・防災体制については、地域合同防災訓練を実施したほか、災害発生に備え、感染症及び自然災害の事業継続計画（BCP）訓練を机上及び実地で実施した。</p>	<p>・科学的介護フィードバックデータを活用した取り組みの推進</p>
幸老吉清水	<p>(1) 小規模多機能型居宅介護事業</p> <p>・利用者の意向を踏まえ「通い」「訪問」「泊り」の各サービスを有効に組み合わせ、利用者の在宅生活の継続につながるマネジメント（サービス調整）を行う。かつ、きめ細やかなサービス提供により利用者の生活を支援する。法人内関係施設との連携を継続し安定的に利用者を獲得する仕組みを構築する。</p>	<p>・利用者のニーズに沿ったサービス提供に努めた。</p> <p>・法人内特養、居宅介護支援事業所との連携を継続し、利用者が必要とする介護サービスの提供に努めた。</p>	

施設名	計 画	報 告	課題等
幸老吉清水	<p>○重点項目</p> <p>○地域交流・防災</p> <p>・感染対策は行いながらも積極的な地域行事への参加、近隣小学校との交流会などを通して、利用者が暮らす地域とのつながりを継続できるよう支援する。防災については、地域住民だけでなく近隣のいずみの里、第2いずみの里と防災連携を図りながら、業務継続計画（BCP）に基づいた実践的な訓練を繰り返し実施し万が一の災害に備える。</p>	<p>・川東小学校5年生との交流事業はインフルエンザ警報と重なったため、職員が小学校へ出向き出前授業を実施し、生徒からビデオメッセージをいただく形で実施した。</p> <p>・いずみ郷での地域合同防災訓練において初めて幹事施設として避難訓練を実施した。</p>	<p>・川東小学校との交流事業の定着</p> <p>・事業所の認知度の向上</p>
五泉中央デイサービスセンター・五泉中央サポートセンター	<p>(1) 通所介護事業</p> <p>・通所介護計画に基づき、利用者個々の状況に応じた生活リハビリ・身体的リハビリ及び認知症予防を意識した脳活性化プログラム等をバランスよく働きかけ、機能維持向上・在宅生活の継続を支援するとともに、柔軟な受入れ体制を整備し、引き続き短時間利用はじめ多様なニーズに対応していく。また、様々な研修や先進施設への視察等に積極的に参加することで、常に新しい情報を収集しながら業務に取り組み、「昔ながらのデイサービス」からの脱却を図る。そして、稼働状況や利用者ニーズ等を見極め、定休日の創設等、今後の運営方法の在り方を検討し判断する一年とする。</p>	<p>・同規模のデイサービス4か所を視察し当センターのあり方について検討し方向性を見直し、統一を図った。</p> <p>・利用者個々の様々なニーズに合わせた受け入れを行い、デイサービスの拠点としての役割を果たした。</p> <p>・効果的な機能訓練を行い心身の機能維持に努めた。</p> <p>・老朽化した入浴機器の入替えを行った。利用者の身体の負担軽減や業務改善につながる機種を導入した。</p> <p>・地域や利用者のニーズを調査した上で運営方法について検討した。その結果次年度より月曜から土曜を営業日とし、稼働の低い日曜と元旦を定休日とする判断をした。</p>	<p>・老朽化したもう1台の入浴機器の入替え</p> <p>・給食提供方式の見直し</p>
	<p>(2) 在宅介護支援センター事業</p> <p>・地域包括支援センターのランチ機能として、行政・民生委員、居宅介護支援事業所等と連携し、地域の総合窓口としての役割を果たす。また、地域住民の自助・共助のための支援の仕組み作り（地域作り推進事業）と総合的な介護予防事業をさらに推進する。</p>	<p>・お茶の間サロンや座談会で地域に出向き、介護予防に関する正しい知識の普及啓発・地域づくりに努めた。</p> <p>・民生委員や地域包括支援センターと連携し、高齢者の実態把握により、早期発見、早期対応に努めた。</p> <p>・介護予防事業（通所型サービスC）は、他職種協働で運営でき、様々な活動や各種関係機関とのネットワークを通して地域の身近な介護問題への対応ができた。</p>	
	<p>(3) 居宅介護支援事業</p> <p>・専門的な知識とアセスメント、プランニング能力の向上に努め、利用者本位の自立支援型ケアマネジメントを推進する。地域、関係機関、専門職等とのネットワークによる地域ケアを推進するとともに、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を果たす。</p>	<p>・内部研修や事例検討を重ねアセスメント・プランニング能力の向上に努めた。</p> <p>・特定事業所として困難事例を積極的に受入れた。</p> <p>・地域、関係機関、法人高齢事業と連携を充実させ、地域包括ケアシステムを意識したマネジメントに努めた。</p>	

施設名	計 画	報 告	課題等
五泉中央デイサービスセンター・五泉中央サポートセンター	○重点項目		
	(4) 相談支援事業		
	<p>・五泉市からの委託相談支援・計画相談支援・地域相談支援による重層的な相談支援が可能な事業所の強みを活かし、行政及び五泉市基幹相談支援センター他各関係機関との連携強化を図りながら様々な相談に対応する。</p>	<p>・基幹センターはじめ、関係機関と連携しながら様々なニーズ・相談に対応した。 ・事業所内での事例検討の他、法定研修・資格取得に努め、職員全体のスキルアップを図るとともに、算定加算を増やした。 ・地域生活支援拠点事業所として24時間の連絡・支援体制を整えており、夜間の電話にも丁寧に対応した。</p>	
	(5) 自立生活援助事業		
	<p>・単身で生活する利用者に、定期的な巡回訪問や随時通報を受けての訪問を行い、相談や助言、関係機関との連絡調整等の自立した生活を営むために必要な援助を行う。</p>	<p>・対象となる利用者がいなかったため、実績はなかった。</p>	
	○地域交流・防災		
	<p>・地域の感染症流行状況を鑑みながら、ボランティアや慰問の受入れなど、積極的に地域交流を推進していく。防災については、業務継続計画（BCP）に基づいた研修・訓練を計画的に行い、地域住民との連携・協力を図りながら災害に備える。</p>	<p>・ボランティア及び各種慰問を積極的に受入れ、利用者と交流を図った。近隣保育所の交流も計画的に行った。 ・自然災害発生時における業務継続計画（BCP）に基づく研修・訓練をはじめ、地域住民等にも参加していただき、水害想定地域合同防災訓練を実施した。</p>	
うずらはし	(1) 特別養護老人ホーム事業		
	<p>・ユニットケアの特性を活かし、ゆったりとした日常生活の流れと家庭的な雰囲気の中、本人と家族の想いを最大限に尊重する「想いを汲み・代弁し・実践するケア」に取り組み、ケアの質の向上を図る。介護現場の生産性向上の観点から、現場課題の抽出と分析を行い、業務改善に繋がる検討を行うなかで、働きやすい職場づくりを目指す。また「人を育て、自分も成長する」育成と成長の仕組みを築き、人材育成の体制を強化し、組織の成長に取り組む。</p>	<p>・大きな介護事故や感染症の集団発生なく、安定した事業運営をすることができた。 ・半面、入居者の入退所が非常に多い1年であり、60人中22人の入替となったが、早期対応し、稼働の安定に努めた。 ・入院による空きベッドが年間のべ493日となり、予防的な健康管理の重要性を改めて認識した。 ・生産性の向上を目的とした各種ICT機器の導入を検討したが、設備の老朽化による修繕が多く、積極的な導入を図ることができなかった。</p>	<p>・入所待機者の確保 ・ICT機器の導入</p>

施設名	計 画	報 告	課題等
うずらはし	○重点項目		
	(2) 認知症対応型通所介護事業		
	<ul style="list-style-type: none"> ・身体機能はもちろんのこと、定期的な認知症スケールを用いて、科学的根拠に基づいた認知症予防、周辺症状への対応等、認知症に特化したメニューの展開し、在宅生活の継続を支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業転換からの2年目となり、サービス内容が安定し、稼働も高く推移した。 ・重度の認知症利用者の受入れも積極的に行い、認知症ケアの対応向上に努めた。 	
	(3) 在宅介護支援センター事業		
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターのランチ機能として、行政・民生委員、居宅介護支援事業所等と連携し、地域の総合窓口としての役割を果たす。また地域住民の自助・共助のための支援の仕組み作り（地域作り支援事業）と総合的な介護予防事業をさらに推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お茶の間サロンや座談会で地域に出向き、介護予防に関する正しい知識の普及啓発・地域づくりに努めた。 ・民生委員や地域包括支援センターと連携し、高齢者の実態把握により、総合相談と心身機能の低下予防に努めた。 ・介護予防事業については、五泉市及び法人内の専門職等と協力して運営ができ、参加者の身体状況が概ね改善するなど、効果がみられた。 	
	(4) 居宅介護支援事業		
<ul style="list-style-type: none"> ・専門的な知識とアセスメント、プランニング能力の向上に努め、利用者本位の自立支援型ケアマネジメントを推進する。介護サービス事業所との連携による、きめ細やかなサービスの提供を行い、地域、関係機関、専門職等とのネットワークによる地域ケアを推進するとともに、地域包括ケアシステム構築の中心的役割を果たす。 	<ul style="list-style-type: none"> ・内部研修や事例検討を重ねアセスメント・プランニング能力の向上に努めた。 ・特定事業所として困難事例を積極的に受入れた。 ・地域、関係機関、法人高齢事業と連携を充実させ、地域包括ケアシステムを意識したマネジメントに努めた。また国が進めるケアプランデータ連携システムを導入し運用準備をした。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアプランデータ連携システムの運用と活用 	
○地域交流・防災			
<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進委員との積極的な情報交換と連携、協力体制の確認を行い、地域との結びつきを強化する。また業務継続計画（BCP）に基づいた研修と訓練を継続し、より実行性の高い計画へ見直し、早期対応と安定したサービスが提供できる体制を構築する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議を開催し、運営状況について、地域の方々から意見や要望を取り入れながら、透明性のある運営に努めた。 ・地域合同防災訓練においても、地域の方々から参加してもらい、役割や課題について確認を行った。 ・避難訓練や災害時の業務継続計画（BCP）訓練に加え、停電/断水/感染症を想定した非常食提供訓練を実施した。 		

施設名	計 画	報 告	課題等
帛の郷	○重点項目		
	(1) 特別養護老人ホーム事業		
	<p>・ユニットケアを中心とした生活単位を基本として、感染予防に留意しつつゆったりとした日常生活の中で入居者に寄り添った家庭的で温かみのある介護サービスを提供していく。入居者及び職員がコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの想いを反映させ、入居者及び職員がコミュニケーションをとりながら、一人ひとりの想いを反映させ、改めてユニットケアの理念に基づいた個別ケアの追求をさらに進めていく。看取り介護について、入居者の今まで歩んできた人生を大切に、職員がチームで入居者及び家族に寄り添い、共に悩み考え「旅立ち」の時までサポートしていく。また、提供するサービスの質を確保するために人材の育成、定着に努め、職員の健康メンタルヘルスケアにも配慮し、様々な研修機会の確保、更なる介護現場の生産性の向上、業務改善を行うことで働きやすい職場づくりを目指す。</p>	<p>・数年ぶりに施設内に新型コロナウイルス感染があったが最低限の広がりで見ることができた。ユニットケアの理念に基づいた個別ケアの追求という点では、入浴ケアを分業体制から一人介助体制を確立できた。介護現場の生産性向上の取り組みについては、外部への研修参加や職員間の意見交換を通して、課題を共有することで次へのステップの情報整理ができた1年であった。</p> <p>・転倒、転落、誤薬等の介護事故が多い年であり、日常ケアにおいては課題が残った。</p>	<p>・介護事故防止への取り組みの強化</p> <p>・入居待機者確保と法人施設連携</p>
○地域交流・防災			
<p>・新型コロナウイルス等の感染予防を徹底しつつ、感染状況をふまえながら近隣小中学校や地域との交流が再開できるよう努める。また帛の郷運営推進委員との連携を図り、地域に貢献できないか常に模索し、地域との結びつきを大切にしていく。また日頃の避難訓練や消火訓練の継続、そして地域消防団や地域住民の協力を得ながら総合的な防災体制の構築を目指す。</p>	<p>・近隣小学校の交流や地域との防災協力活動は再開。今後も地域のシンボル施設としての活動につなげたい。地域住民との意見交換の場への参加により、地域住民のニーズの把握もできた。</p>	<p>・「交流」の再開から「交流行事」の再開へ</p>	

附 属 明 細 書

○苦情・事故件数（県・市町村へ報告した事案）

施設名	苦情合計	事故の種別				事故合計	
		負傷(骨折、打撲、裂傷等)※高齢は7ヶ月後の通院のみ含む	誤飲・誤薬	無断外出・徘徊等	その他		
障害福祉事業部	いずみの里	0 (0)	1 (0)	8 (11)	0 (0)	0 (0)	9 (11)
	陽だまり (グループホーム)	0 (0)	0 (0)	1 (5)	0 (0)	0 (0)	1 (5)
	自立就労センターいずみ	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	第二いずみの里	0 (0)	9 (2)	6 (2)	0 (0)	0 (0)	15 (4)
	満日の里	0 (1)	6 (4)	13 (15)	0 (0)	0 (0)	19 (19)
	なでしこ (グループホーム)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	0 (0)	1 (1)
	きなせ家	1 (0)	0 (0)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (0)
	さくらの里	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	あさひの家	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	虹工房	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
たんぽぽ	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	
高齢福祉事業部	菅名の里	0 (0)	6 (3)	5 (8)	0 (0)	0 (0)	11 (11)
	まおろしの郷	0 (0)	4 (6)	1 (0)	0 (0)	1 (0)	6 (6)
	幸老吉清水	0 (0)	1 (5)	4 (1)	0 (0)	0 (0)	5 (6)
	五泉中央デイ・サポートセンター	0 (0)	2 (2)	1 (3)	0 (0)	1 (0)	4 (5)
	うずらはし	0 (0)	1 (3)	1 (0)	0 (0)	0 (0)	2 (3)
	帛の郷	0 (0)	10 (6)	6 (1)	0 (0)	0 (0)	16 (7)
合計	1 (1)	40 (31)	47 (47)	1 (1)	2 (0)	90 (79)	

※負傷等の報告対象事故…（障害）治療に相当期間（1週間以上）を要する場合
（高齢）医療機関への受診を要した場合

※括弧内は令和6年度の合計数

○公益通報者保護に関する規程に基づく公益通報対応状況… 0件

事業所別年間利用者数・稼働率

	施設名	事業名	令和7年度 3月末 現在定員	年間 営業日	令和6年度		令和7年度		前年比 (利用者数) ③-①	前年比 (稼働率) ④÷②
					利用者 数 ①	稼働率 ②	利用者 数 ③	稼働率 ④		
障 害 福 祉 事 業 部	いずみの里	施設入所支援	40	365	14,374	98	14,486	99	112	101.0%
		生活介護	40	365	12,154	83	11,972	82	-182	98.8%
		短期入所（併設）	5	365	1,790	98	1,528	84	-262	85.5%
	陽だまり	共同生活援助	30	365	9,215	84	7,478	68	-1,737	81.3%
	自立就労セン ターいずみ	自立訓練（生活訓練）	10	335	396	17	173	5	-223	30.6%
		就労継続支援A型	6	335	1,089	76	1,121	56	32	73.4%
		就労継続支援B型	34	335	6,957	85	6,931	61	-26	71.6%
	第二いずみの里	施設入所支援	50	365	17,134	94	17,279	94	145	100.4%
		生活介護	55	365	13,622	68	13,675	68	53	100.4%
		短期入所（併設）	5	365	1,454	80	1,272	69	-182	86.8%
	満日の里	施設入所支援	50	365	17,960	98	17,599	96	-361	98.0%
		生活介護	60	365	16,187	74	15,481	71	-706	95.8%
		短期入所（併設）	10	365	1,903	52	2,063	57	160	108.4%
	なでしこ	共同生活援助	20	365	6,963	95	6,100	84	-863	88.0%
	きなせ家	生活介護	15	304	4,872	106	4,534	99	-338	93.4%
		就労継続支援B型	20	256	4,455	84	4,173	82	-282	96.7%
	さくらの里	生活介護	10	254	2,204	87	2,753	108	549	124.5%
		就労継続支援B型	20	333	4,435	92	3,675	55	-760	59.7%
	虹工房	就労移行支援	3	242	206	28	139	19	-67	67.9%
就労継続支援B型		17	242	3,523	86	3,463	84	-60	97.7%	
たんぽぽ	生活介護	6	240	1,487	103	1,442	100	-45	97.1%	
	就労継続支援B型	20	240	3,904	81	4,423	92	519	113.6%	
高 齢 福 祉 事 業 部	菅名の里	介護老人福祉施設	80	365	28,625	98	28,648	98	23	100.1%
		短期入所生活介護	20	365	6,184	85	6,749	92	565	108.7%
	まおろしの郷	介護老人福祉施設（広域）	42	365	14,642	95	14,847	96	205	101.1%
	幸老吉清水	小規模多機能型居宅介護	29	365	10,162	96	10,227	96	65	100.0%
	五泉中央デイサービスセンター	通所介護	60	365	18,670	85	18,255	83	-415	98.1%
	うずらはし	介護老人福祉施設	60	365	21,395	98	21,271	97	-124	99.0%
		認知症型通所介護	12	365	3,972	91	4,053	93	81	102.2%
	帛の郷	介護老人福祉施設	29	365	10,329	98	10,280	97	-49	99.2%

職員数の推移

(4月1日現在在籍数)

※嘱託医除く・産休育休等含む

所属		区分	令和4年	令和5年	令和6年	令和7年	令和8年	
法人本部		正規	4	4	4	4	5	
		嘱託・準	2	2	2	3	3	
		パート・日給	1	1	1	1	1	
法人本部計			7	7	7	8	9	
障害福祉事業部	いずみの里 (グループホーム含む)	正規	34	32	28	28	25	
		嘱託・準	11	12	12	12	13	
		パート・日給	21	21	20	21	15	
	いずみの里計			66	65	60	61	53
	自立就労センターいずみ	正規	6	6	7	7	5	
		嘱託・準	9	9	7	7	7	
		パート・日給	7	7	9	8	8	
	いずみ計			22	22	23	22	20
	第二いずみの里	正規	32	33	38	37	40	
		嘱託・準	4	2	1	2	1	
		パート・日給	6	6	7	7	6	
	第二いずみの里計			42	41	46	46	47
	満日の里 (グループホーム含む)	正規	47	44	43	43	40	
		嘱託・準	10	9	11	8	8	
		パート・日給	19	20	18	20	20	
	満日の里計			76	73	72	71	68
	きなせ家	正規	7	9	10	9	8	
		嘱託・準	13	11	8	8	8	
		パート・日給	1	1	3	1	3	
	きなせ家計			21	21	21	18	19
	さくらの里	正規	5	6	5	6	5	
嘱託・準		6	6	5	6	6		
パート・日給		4	4	5	3	3		
さくらの里計			15	16	15	15	14	
あさひの家	正規	5	3	2	2	3		
	嘱託・準	1	2	3	3	2		
	パート・日給	1	1	1	1	1		
あさひの家計			6	6	6	6	6	
虹工房	正規	3	3	3	2	2		
	嘱託・準	7	7	7	7	8		
	パート・日給	1	0	0	2	1		
虹工房計			11	10	10	11	11	
たんぼぼ	正規	6	5	7	8	7		
	嘱託・準	5	6	5	5	5		
	パート・日給	8	11	8	6	6		
たんぼぼ計			19	22	20	19	18	
菅名の里	正規	63	52	50	44	44		
	嘱託・準	12	9	10	9	13		
	パート・日給	24	17	16	15	14		
菅名の里計			99	78	76	68	71	
まおろしの郷	正規	19	19	20	18	16		
	嘱託・準	3	3	3	4	5		
	パート・日給	9	8	8	4	6		
まおろしの郷計			31	30	31	26	27	
幸老吉清水	正規		7	7	7	6		
	嘱託・準		3	2	2	3		
	パート・日給		5	7	7	7		
幸老吉清水計				15	16	16	16	
五泉中央デイサービセンター	正規	20	18	18	19	19		
	嘱託・準	8	9	10	8	5		
	パート・日給	15	15	14	16	17		
五泉中央デイ計			43	42	42	43	41	
五泉中央サポートセンター (基幹・包括出向含む)	正規	17	16	16	16	16		
	嘱託・準	2	1	2	1	2		
	パート・日給	0	0	0	0	0		
五泉中央サポ計			19	17	18	17	18	
うずらはし	正規	50	45	44	41	42		
	嘱託・準	15	15	12	14	14		
	パート・日給	13	10	8	6	6		
うずらはし計			78	70	64	61	62	
帛の郷	正規	17	17	17	18	17		
	嘱託・準	7	6	6	5	6		
	パート・日給	6	6	6	3	4		
帛の郷計			30	29	29	26	27	
全体	正規	344	331	319	309	300		
	嘱託・準	117	115	106	104	109		
	パート・日給	139	134	131	121	118		
全体計			600	580	556	534	527	

※令和3年～令和5年は明日葉の職員数を含む

職員有資格者数（延べ人数）

令和8年3月31日現在

所属		社会福祉士	介護福祉士	精神保健福祉士	介護支援専門員	社会福祉主事	保育士	喀痰吸引
法人本部		1	0	0	3	6	0	0
障害福祉事業部	いずみの里（グループホーム含む）	6	14	1	2	22	7	15
	自立就労センターいずみ	1	4	0	0	4	1	3
	第二いずみの里	8	17	1	1	18	8	10
	満日の里（グループホーム含む）	6	17	2	4	19	10	10
	きなせ家	4	7	1	2	10	2	4
	さくらの里	2	5	1	0	4	1	1
	あさひの家	3	2	1	1	4	0	1
	虹工房	0	1	1	0	3	2	1
	たんぼぼ	2	10	1	0	7	2	1
高齢福祉事業部	菅名の里	7	35	1	11	22	2	34
	まおろしの郷	1	15	1	3	8	0	13
	幸老吉清水	0	10	0	3	8	1	6
	五泉中央デイサービスセンター	7	18	1	5	11	0	8
	五泉中央サポートセンター（基幹・包括出向含む）	10	6	5	8	6	4	3
	うずらはし	6	38	1	11	22	2	32
	帛の郷	3	14	0	3	5	1	16
令和7年度合計		67	213	18	57	179	43	158
令和6年度合計		69	215	20	62	189	46	149

職員研修（外部・内部）参加者延べ人数

所属	合計		令和7年4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		令和8年1月		2月		3月		
	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	外部	内部	
法人本部	17	21	0	2	2	2	4	0	1	0	0	0	0	6	1	7	1	0	0	2	4	0	4	0	0	2	
障害福祉事業部	いずみの里（グループホーム含む）	24	202	2	24	2	27	1	32	6	24	0	0	2	8	3	56	7	11	0	20	0	0	0	1	0	
	自立就労センターいずみ	9	75	1	0	0	0	0	13	2	16	0	0	2	16	1	17	2	0	0	13	0	0	1	0	0	0
	第二いずみの里	29	106	0	4	3	0	7	10	5	19	2	16	7	10	0	29	4	7	0	6	1	0	0	5	0	0
	満日の里（グループホーム含む）	57	543	0	6	1	87	8	98	9	22	2	0	5	64	9	34	10	12	9	68	1	0	1	33	2	119
	きなせ家	39	132	0	2	3	1	0	15	8	36	2	18	4	20	5	8	5	0	6	14	2	15	4	0	0	3
	さくらの里	24	96	0	2	2	0	3	14	2	28	1	14	3	13	2	2	5	0	3	9	2	12	1	0	0	2
	あさひの家	20	4	0	0	1	0	1	1	3	0	1	0	6	0	1	0	4	0	3	1	1	2	0	0	0	0
	虹工房	31	71	0	0	7	0	3	20	5	6	0	4	3	0	3	9	5	0	3	14	1	8	1	0	0	10
	たんぽぽ	37	134	0	0	5	0	4	8	5	0	1	33	3	4	6	24	5	17	4	6	1	17	3	7	0	18
高齢福祉事業部	菅名の里	152	716	1	7	6	58	16	66	10	48	5	89	11	71	10	56	23	100	19	78	22	59	21	6	8	78
	まおろしの郷	59	377	0	25	8	39	3	23	10	40	5	23	7	29	4	23	5	43	4	36	4	24	6	24	3	48
	幸老吉清水	44	182	0	0	0	18	0	16	9	16	2	16	13	18	4	16	7	18	8	16	0	16	1	16	0	16
	五泉中央デイサービスセンター	48	421	2	5	5	8	2	15	4	38	2	0	3	70	12	108	3	23	4	50	4	0	5	24	2	80
	五泉中央サポートセンター	55	136	0	7	2	12	1	6	6	7	5	12	6	24	5	12	12	17	8	11	8	5	0	12	2	11
	うずらはし	154	966	0	66	14	67	20	60	7	66	6	80	40	164	8	61	7	62	39	61	7	65	6	122	0	92
	帛の郷	34	400	1	29	3	25	1	25	2	50	8	25	4	25	5	25	5	25	2	50	3	25	0	43	0	53
合計	833	4,582	7	179	64	344	74	422	94	416	42	330	119	542	79	487	110	335	112	455	61	248	54	292	18	532	